

ちくま大学 第2回

経済思想家としての ジェイン・ジェイコブズ

塩沢由典

取り上げる本

● 経済学4部作

- 都市の原理 The Economy of Cities (EC) 1969
- 都市の経済学/発展する地域 衰退する地域 Cities and the Wealth of Nations (CW) 1984
- 市場の倫理 統治の倫理 Systems of Survival (SS) 1992
- 経済の本質 The Nature of Economy (NE) 2000

● 今回はECとCWのみ

● SSについては第3回(平尾昌宏)

● NEと『アメリカ大都市』第4部⇒第5回

アベノミクスとJane Jacobs

- アベノミクスの(旧)3本の矢
 - (1)大胆な金融政策
 - (2)機動的な財政出動
 - (3)民間投資を喚起する成長戦略
- 円安と株価高騰/異次元の金融政策
 - インフレ率2%も実現せず
 - マイナス金利出動に追い込まれる。
- 経済成長(経済発展)の本質が分かっていない。
 - JJのECおよびCWは、この問題を扱っている。
 - アベノミクスがうまく行かない理由・対策については『今よりマシな日本社会をどう作れるか』SURE, 3013.7。

新しい仕事はどう生まれるか(1)

● ローゼンタール夫人とブラ(EC2)

- EC 第2章「新しい仕事はどう始まるか」
- 1920年代初め(既製服の生産・販売始まる)のNY
- ローゼンタール:町の洋装品店

● 仕立てた品を装着

- 当時の下着: コルセット、ペティコート、etc.
- ブラジャーを試作、お客へのサービス
- ブラ製造・卸に専念

新しい仕事はどう生まれるか(2)

- Minnesota Mining and Manufacturing(EC2)
 - 最初 二人のオーナーと数人の従業員
 - 紙やすりの製造(砂を採集、選別、接着剤で糊付)
- 接着剤の研究
 - 各種のテープ(マスキングT、絶縁T、セロファンT、スコッチ、録音T、スコッチT)⇒3Mへ
- 失敗した生産からヒット商品
 - Postit開発物語

失敗から得られた大Hit商品

- 粘着剤を開発>失敗
- 粘着するが、きれいに剥がせる。
- ポストイットの発明 cf.日本の付箋



Postitと市場開発

- 1968 Dr. Spencer Silver 強くない接着剤
- 1974 Art Fry Postitの原型 自宅地下室
- 社内の却下(上長)
 - 現物を全役員に配布
- 1977 4市場で調査(Press 'n Peel)
- 1978 Boise, Idahoで無償配布
- 1980 正式発売

新しい仕事の論理(1)

● $D + A \Rightarrow n D$

- 一つの仕事 じつは多数の工程、作業
- そのひとつから新しい仕事生まれる。

● 新しい仕事

- 驚き、予測は困難
- 成功してみれば、驚くほど論理的で自然
- 芸術家の創造に類似

● 教育 文系+理系、それで十分？

新しい仕事の論理(2)

●新結合(J. Schumpeter)

『経済発展の理論』第2章「経済発展の根本現象」

- 新しい生産物および新しい品質の創出と実現
- 新しい生産方法の導入
- 産業の新しい組織の創出
- 新しい販売市場の創出
- 新しい買いつけ先の開拓

●JJ 異質なものの組合せ(EC2)

新しい仕事の論理(3)

● JJ “breakaway”(米語にない) (EC2)

- 暖簾分け、独立、Spin off (spin out)
- 「事業の仕方」の複製 ex. 松下幸之助(五代自転車商会)

● Rochester (EC2)

- Bausch&Lomb, Eastman Kodak, Zeroxの拠点
- 1900年ごろ Birminghamのような町
- George Eastman 独立に対し訴訟
- Zeroxは成功したが、町の創造力は回復しなかった。

都市のインキュベータ機能(1)

- 「非効率」が新事業を育てる。(EC3)
 - 銀行：大企業に貸す。⇔Microfinance
 - “many, many small loans” ⇔工場誘致(Sharp)
- 見えざる育雛効果
 - 部品、梱包、運送、サービス、融資、法務、代行etc.
- ある物理学者の話(EC6)
 - 郊外の顧客からの注文
 - 実験装置を作る買物リスト12軒から34種類 2軒は市外

都市のインキュベータ機能(2)

● 見えない育雛効果(2)

- 秋葉原(日本橋)の電気街(電子部品)
- 江戸通り問屋街 浅草橋・蔵前通り
- ソウル 乙支路3街(清溪川)
 - ◆ 鐘路3街と乙支路3街に挟まれた地域一帯の小売卸兼業の小商店・小工場の高度密集地体
 - ◆ 東大門市場は有名だが

● 市場(大きさでなく、多様さ)

- 『関西経済論』内編第2章8節
- 大産業でなく、多数の小さな新事業 (JJ 3億ドル)

国の成長戦略は可能か

●CW

- 第1章 愚者の楽園⇒マクロ経済学批判
- 第2章 現実にたちもどって⇒再出発の起点
- 山形浩生さんの批判=「アマチュアの失速」

●発展の単位は国か、都市(圏)か。

- 重商主義の時代、スミス『諸国民の富』
- 都市が経済発展の単位
- マクロ経済学(動学的確率的一般均衡、一財モデル)
- 金融政策(実質利子率を変えれば)

適切なフィードバック (CW11)

●通貨と為替レート

- アベノミクス: 唯一効果的だったこと⇒円安
- 輸出企業 vs. ほとんどの国民

●EURO

- 適正通貨圏(optimal currency area, OCA)
- Robert A. Mundell (Nobel賞1999)
- リフレの背景: New Consensus Macro [M-Fモデル]
- JJ: 都市地域を越えると、FBが効かなくなる。

資本過剰経済

- Manchester vs. Birmingham (EC3)
 - M.は次の事業を育てていない。
- Detroit (EC7)
 - 生み出された資本が域内で投資されない。
- 今の日本
 - 貿易収支 黒字(1981-2010)
 - 国内での投資先の不足
- 先進国全体(北米・EU)

まとめ

● 経済学の奴隷？

■ 経済学者や政治哲学者の思想は、それが正しい場合にも間違っている場合にも、一般に考えられているよりはるかに強力である。...権力の座にあって天声を聞くと称する狂人たちも、数年前にのある三文学者から...考えを引き出しているのである。...遅かれ早かれ、良かれ悪しかれ危険なものは、既得権益ではなく思想である。(ケインズ『一般理論』最終章・末)

■ 政治家・国民・経済学者も

● ジェイコブズ 暮らしの事実から経済学を捕らえなおすことのできるひと